

# 聖望学園同窓会 会報

第30号

聖句「たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようと、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようと、愛がなければ、無に等しい。（コリントの信徒への手紙—13章2節）

## 同窓会報第30号の 発刊に寄せて



会長 清水 孝晏  
たかやま 孝晏

同窓生の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。今回からは画面でのご挨拶となります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。「あれから15年」東日本震災の復興はどうなっているのでしょうか。2026年3月11日で、東日本大震災から丸15年が経ちました。節目というこの時にこれまでの復興の歩みと、今まさに東北が直面している現状について私なりに疑問を抱き、学んでみたいと思います。「結局、復興って終わったの?」という疑問に、正直に思うこの頃です。政府は、「復興庁」という専用の組織を作り、これまでなんと「約42兆円」もの予算を投じてきており、その結果として、目に見える建物の復旧は、ほぼ100%完了しているようです。避難していた人の数は震災直後47万人もいましたが、現在は約2,9万人まで減っているようです。これまで復興をリード

してきた「復興庁」は2031年に役割を終える予定です。復興のステージは「仕上げ」から「次への準備」へ新しく「防災庁」を誕生させて、東北の復興なくして日本の発展はないとの位置づけの基に復興、復旧へと歩を進めていくことを大いに期待していきたいと考えます。震災からコロナ、私たちの胸の内からは暗い思いがぬぐい切れないのは皆同じではないでしょうか。それに、追い打ちをかけるが如くロシアによるウクライナ侵攻から4年が経つ今も和平交渉にも先が見えず直面している人々が苦しんでいます。更に、今テレビをつければ、決まってアメリカ・イスラエルによるイラン攻撃が激化して世界中に石油騒動を引き起こしている現状が報道されています。何かこの暗闇から逃れたい気持ちを持っていた最中に、この、3月15日に2026年紙芝居グランプリ大会が大阪で開催との報に接して、その懐かしさに救われました。紙芝居といえは1930年（昭和5年頃）鉛などを売りながら物語を語る街頭紙芝居が全国に広がり当時の人気作は日本初のヒーロー「黄金バット」で最近ではスーパーマンに匹敵す

るものでした。東京では2000人の紙芝居師がいたそうです。1950年代後半テレビの普及で急速に衰退し、1967年には小学校の備品からも外されました。1990年代以降に復活し、今ではベトナム、ラオスなど海外に広がっているようです。現在は58カ国の地域で親しまれ、その存在は消えています。街頭紙芝居の黄金期（1930年～1950年代）紙芝居は自転車で町を回り拍子木で子供たちを集め駄菓子を売りながら演じていました。現代の紙芝居（1970年代～現在）は教育・図書館・保育・国際交流として再評価されています。

## ご挨拶



理事長兼校長 関 純彦

本学園は創立108年目を迎えました。昭和元年から数えると、本年は101年目にあたります。昭和の時代には第二次世界大戦という未曾有の出来事があり、戦後80年を超えた現在、戦争を直接知る世代は年々少なくなっています。

そのような折、義母の遺品の中から『勤労働員』という文集が見つかりました。これは1995年、広島県立呉第一女学校の同窓生の方々によってまとめられたもので、当時14歳、15歳の女学生たちが、政府の命令により呉市の海軍工場で戦艦部品の製造に従事していた日々が綴られています。

その中から、生田房子氏による「原爆の日」の一節を抜粋し、ご紹介いたします。

——「8月6日午前8時過ぎ、仕事が始まったばかりの頃、ピカッと光り、何事かと皆が周りを見回していた時、強風が吹きこんで来ました。あわてて防空壕に入り息を殺していましたが、それつきり何もないので、しばらくして平常通り仕事を始めました。

夕方5時に仕事が終わりに着いても汽車は来ず、ホームも空き地も人であふれていました。午後9時、ようやく汽車が着きました。頭から灰をかぶった若いお母さんが両脇に子どもを抱え、誰が話しかけても放心状態で返事がありました。せんでした。

その後、帰りの汽車には日に日にひどいやけどを負った人が増えていきました。この惨状は今でも

目に焼き付いています。犠牲になられた方々を目の当たりにしただけに、毎年8月には亡き人々の冥福を祈り、平和への誓いを新たにします。」——

戦争で犠牲になったのは軍人だけではありません。沖縄戦、広島・長崎の原爆、都市空襲など、多くの市民が命を落としました。当事者が語りたくないと感じるのは当然のことです。しかし、このように体験を語り継いでくださる方々のおかげで、若い世代は戦争の現実を知ることができます。これからも、未来ある生徒たちに戦争のない社会の実現を伝えていきたいと思えます。

さて、ここで学園の近況をご報告いたします。

#### ◆サッカー部の活躍

中学サッカー部は、2025年度新人体育大会兼県民総合スポーツ大会兼テレビ埼玉旗争奪サッカー大会において、見事3連覇を達成しました。

また高校サッカー部は、2025年第104回全国高校サッカー選手権埼玉予選でベスト8に進出しました。

#### ◆生徒募集状況

全国的に中高生人口が減少する厳しい状況の中、本年度は高校全日制の新生が36名と定員を超える

ことができました。中学校も73名が入学しました。高等学校通信制課程は4年目を迎え、全体で76名、新入生22名となりました。中高全体では、昨年度比110名の増加となりました。

#### ◆幼児教育部門の取り組み

企業主導型保育室では、3月に4名の卒園児を送り出し、現在は教職員の家を含め19名ほどの園児が通っています。

同一法人となつて3年目の元加治幼稚園（入間市）では、23名の新入園児を迎えました。2027年4月開設予定の認定こども園に向け、新園舎の建設も進んでいます。

同窓生の皆様が築き上げてこられた聖望学園の良き伝統と校風を大切に、学園のさらなる発展に努めてまいります。キリスト教主義教育を礎に、地域社会の皆様とともに、思いやりの心を育む教育をこれからも実践してまいります。

今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようと、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようと、愛がなければ、無に等しい。」（コリントの信徒への手紙―13章2節）

## 豊の上の絆、いつまでも 柔道部休部に寄せて

2010年3月卒業

岩井 将悟

2010年に卒業し、卒業後には柔道部OB/OG会の会長をさせていただいております、岩井と申します。

私の代では県内で常に上位校！として実績を残せた訳ではありませんが、強豪校に立ち向かうべく、顧問である佐藤淳二先生の厳しいご指導のもと、仲間と共に汗を流した学生時代は良き思い出であり、宝物です。仲間が全国常連相手に勝利し、抱き合い、喜びを分かち合った経験は今でも忘れられません。

柔道部の伝統として、卒業生のOB/OGが時間を見つけては道場に顔を出し、自ら道着を着て指導する文化があります。現役からすると有難迷惑なのですが、素人から始めて1年で黒帯を取得。他校と肩を並べ、中には大学でも活躍する選手を輩出する事が出来ている事はこの伝統のおかげと言っても過言ではありません。

特に夏休み期間中に行われる合宿練習ではOB/OGが一堂に参加しました。佐藤先生には日頃から礼儀・礼法を厳しくご指導いただきました

が、この日に参加されるOB/OGの方々には特に厳しかったと記憶しております。それも今となっては考えてみれば、私達後輩の為にあって厳しくしていただいたのだと思います。そのお陰もあり、柔道部の卒業生には医者、官僚、公務員、自営業、上場企業での海外駐在者など、活躍する社会人を多く輩出してあります。聖望学園柔道部の神髄は、「社会で通用する人間を育てる」ことにあると強く思っております。

そんな柔道部ですが、昨今の柔道離れ・危険スポーツである事から、現役生は2名。現役生の引退後には休部になることを佐藤先生から連絡いただきました。私の代では約30名おりましたので非常に残念ですが、30年以上顧問を務められた佐藤先生が一番悔しい結果だと思えます。この現状をOB/OG会に共有した所、多くの卒業生から「最後に畳に立ちたい」と連絡をいただき、2024年の夏練習では約40名。2025年時には約30名と大変多くの方に参加いただきました。50代、10代のOB/OGが集まり、仲間との再会や、活気ある練習に懐かしくも、寂しさを感じながら皆さん畳に立つておりました。



2026年時には佐藤先生の還暦を祝う会も予定されており、部活動としては休部となっても、OB/OG会の会長としてこれからも柔道部を盛り上げていきたいと思えます。

## 還暦を迎えた新人類が集う

1984年3月卒業 渋谷 秀一

令和7年同窓会・あの頃のエネルギーが蘇った一日！

令和7年9月20日(土)、緑豊かな武蔵野の地に竹むへりテイジ飯能にて、昭和40年生まれの同窓生が集い、笑いと感動に包まれた再会の一日が実現しました。

来賓には、関校長先生をはじめ、長年私たちを見守ってくださった楠美先生、内川(藤田)先生、高野先生、佐島先生、田村先生、山畑先生をお迎えし、総勢84人が一堂に会しました。

恩師の皆様の変わらぬ温かい眼差しに、私たちは一瞬にして高校生だったあの頃に立ち返ったような気持ちになりました。

「新人類」から「バブル世代」へ。

あの時代を想うー

昭和40年生まれの私たちは、かつて「新人類」や「バブル世代」と呼ばれていました。

社会人として一步を踏み出した時代は、まさに日本経済が煌めいていたバブル景気の絶頂期でした。テレビCMでは「24時間戦えますか?」という熱い檄が飛び、「財テク」な



どの言葉が流行語となり、多くの人々が好景気を肌で感じられるような時代でした。

私たちは、長時間労働も当たり前のことと疑問に思わず受け入れ、同

時に、最新のトレンドに飛びつき、華やかなライフスタイルを積極的に消費した世代だといわれています。

同窓生その時代の過ごし方は、それぞれですが身体と心の「パワー」と「エネルギー」は、「いつも満タン」だった気がします。

―還暦の葛藤と成熟を経て・再会が  
結ぶ絆―

そんな、かつて若者として注目を集めた私たちも、次々に還暦へと突入し、人生のセカンドステージであるシニア期を歩み始めています。



佐島先生、高野先生、山畑先生、内川(藤田)先生、楠美先生、田村先生

わらないねえ」そんな言葉とともに久しぶりに顔を合わせた仲間たちは、皆どこか昔の面影を残しながらも、それぞれが仕事や家庭、様々な人生の経験を重ねた大人としての成熟した姿でした。

―乾杯、そして蘇るあの時の記憶―  
シャンパンのグラスを打ち鳴らし、「乾杯！」の音頭と共に、会場の熱気は一気に沸騰しました。

会話は即座に高校時代にタイムスリップ。汗と涙を流した部活動の思い出や、クラスでの些細な出来事、「そんなことあったっけ?」「あの時は、本当に大変で…」など、尽きることのないエピソードや思い出話に、あちこちで笑いが弾きました。

先生方も交えて当時のエピソードが語られ、恩師と生徒という立場を超えた温かい交流が繰り広げられました。

近況報告では、長年のキャリアを活かしたセカンドキャリアへの挑戦や、今も続けている趣味の話題、そしてお孫さんの話まで飛び出し、会は大いに盛り上がりました。

―人生100年時代の折り返し点―  
「新人類」と呼ばれた私たちも、次々に60歳を迎えています。しかし、仲間たちとの間にある好奇心と揺るぎない絆は、高校時代(あの頃)と

何一つ変わっていません。

私たちは今、人生100年時代の折り返し点に到達したばかりです。

同窓生との語らいの中で、これまでの経験と、新人類ならではの柔軟な発想を武器に、これからも新しい時代を力強く切り開いていく世代でありたい、と強く感じさせるひと時となりました。

今回の再会は65歳、あるいは70歳になるかもしれませんが、いつまでもあの時のままの、エネルギー豊富な自分で再会できることを楽しみに、またそれぞれの人生を歩んでいきましよう!



山畑先生 佐島先生 関 理事長兼校長

## 同窓会のつどい

### ●クリスマスツリー点火式の参加

2025年11月21日(金)クリスマスツリー点火式に参加しました。キャンドルの炎に照らされた生徒の姿が印象的でした。



### ●2026年度第24回奥むさし駅伝の応援に参加

2026年1月25日(日)快晴となる青空の下、高校の部66チーム、一般の部109チームの全175チームが一斉にスタートを切り、熱

戦が繰り広げられました。生で見るランナーたちの息遣いや想像以上の躍動感に歓喜し、応援する側の声援も力強い応援となりました。当日は風も強く、のぼり旗も吹き飛ばされそうな程でしたが、強風



にも負けず、選手達は激闘を見せてくれました。約2時間後、続々と選手達がゴールに向かい、高校の部は佐久長聖高等学校Aがトップでゴールイン。ゼッケン74番の聖望学園高校は2時間23分16秒の59位でゴールしました。力走した選手一人一人に万感の思いで拍手を送りたい、そんな素晴らしい大会となりました。参加した聖望学園の生徒達や準備等尽力された学園関係者の皆様、大変お疲れ様でした。

### ●新年会の開催

第24回奥武蔵駅伝の応援に参加した後、場所を飯能市内の「かみかみya」に移動し、同窓会メンバーのみで新年会を開催しました。先程までの熱戦の興奮も冷めない中、学園の近況や今後の展望など幅広い意見



交換の場にもなりました。とてもいい雰囲気であれば楽しいと思えるそんな場所にもなっていると思えます。

### ●吹奏楽部定期演奏会の鑑賞

吹奏楽部の第46回定期演奏会が3月21日入間市産業文化センターで開催されました。一昨年は部員数が6名まで減少し、廃部の危機にありましたが現在は28名の部員になりました。若さ溢れる清々しい音源で第2



部では「紅白歌合戦」と題し客席の皆さんに紅、白どちらが良かったかQRコードで回答する場面もありユニークな笑いありの楽しい演奏会でした。



指揮をする顧問 二村幸男先生

## 学園の動静

### ●学園人事

令和8年3月に定年退職された先生  
金子 寿雄 先生

## 令和7年度 同窓会奨励賞

### 英語科

田中恵理香 (高1)

○実用英語技能検定試験  
1級取得

### スキー

石川 竜大 (中3)

○令和7年度 第63回全国中学校  
スキー大会出場

# 令和6年度 聖望学園同窓会決算

自 令和6年4月1日  
至 令和7年3月31日

## 1. 収入の部

(単位：円)

項目	令和6年度予算額	令和6年度決算額	摘要
繰越金(運営費)	3,518,900	3,518,900	飯信普通預金残高(2,099,197円) 郵便局残高(1,309,662円) 現金残高(110,041円)
会費	1,953,000	1,974,000	令和6年度卒業生(高校):273名×7,000円=1,911,000円 令和6年度卒業生(中学):9名×7,000円=63,000円
預金利子	100	245	(定期預金46円・普通預金199円)
協賛金	600,000	480,000	協賛金(229件)
雑収入	50,000	15,000	総会寸志
合計	6,122,000	5,988,145	

## 2. 支出の部

項目	令和6年度予算額	令和6年度決算額	摘要
通信費	50,000	34,514	役員会通知用切手代、はがき代
事務・印刷費	100,000	78,710	振込手数料・残高証明発行手数料・協賛金手数料
会議費	50,000	87,512	総会、役員会議
会報発行費	2,100,000	1,722,886	第28号会報発行(発行数12,793部)
記念品費	400,000	326,424	卒業証書ホルダー・激励賞
交際費	200,000	101,500	御礼、高校野球・高校サッカー応援広告料
慶弔費	50,000	30,000	お祝い金
準備金	200,000	200,000	財源調整積立
事業費	200,000	0	
予備費	50,000	0	
合計	3,400,000	2,581,546	
次期繰越金	2,722,000	3,406,599	(飯信残2,192,112円・郵便局残1,174,472円・現金残40,015円)
総計	6,122,000	5,988,145	

財源調整積立金：定期預金 ￥2,794,000

収入(5,988,145円) - 支出(2,581,546円) = 次期繰越金(3,406,599円)

### 協賛金のご案内

\*引続き協賛金をご協力していただける方は郵便局窓口の振込み用紙で「00510-7-28113」の振替口座番号を記入してお振込みをお願いいたします。

\*一口2,000円

## 校歌

沢田英彦 作詩  
津川主一 作曲

一、懐かしき学びや わが母校聖望学園  
やまなみ越えて はるかに仰ぐ  
富士ヶ嶺たかく 憧るる理想に  
わが胸もおどれり。

二、懐かしき学びや わが母校聖望学園  
むさしの深く みどりをうつし  
そそげる名栗 その清き流れに  
わが心洗わる。

三、懐かしき学びや わが母校聖望学園  
くもらぬ日影 におえる丘辺  
実れる田畑 限りなき恵みは  
わが生命はくむ。

四、懐かしき学びや わが母校聖望学園  
ナザレの君が いそしみましし  
山辺の里を 想いつつ今しも  
われ御跡ふみ行かん。

懐かしき学びや  
わが母校聖望学園

二〇二六年六月一日発行

聖望学園同窓会

同窓会会報 第三十号

編集兼発行者 同窓会会報編集委員

植山啓子・富永重子・守田公子

山崎暁生・滝島久夫・加藤千晶